

事務事業評価シート(平成22年度)

(ソフト事業)

(A面)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課	課長名	記入者
		こども未来 課	越川昌信	宮田真里衣
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度
子ども議会開催事業(ふれあいトーク)		新規	年度	年度
		○ 継続	○ H20以前	○ 未定
事務事業の体系				
計画 掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち	(節) 1 のびのび育とう、育てよう	
	個別計画	(基本計画)		
根拠法令・条例・要綱等		事業区分(該当する区分に「○」)		
		○ ソフト事業	施設の維持管理	
		義務的事業	内部管理事務	
事務事業の具体的内容		建設・整備事業	計画などの策定	
子ども議員・質問の集約、各課へ依頼、回答の調整等		補助金の支給	有○無	
		委託	全部委託	一部委託
		○ 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象(働きかける相手・誰が・もの)	受益者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)
児童生徒	児童生徒	行政事務事業の内容を理解してもらい、町への期待や日頃行政に対して感じている疑問や課題などを提案してもらう。 そして、子どもの目線から見た町づくり行政のあり方を考える機会とする。

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>				会計名	一般	会計
細目名	教育指導費			細目名		
予算コード	款	項	目	予算コード	款	項
	10	1	3			

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>						
事務事業・人員		単位	21年度 決算	22年度 実績(見込)	23 年度 計画	備考 (全体事業費など)
総コスト			455	459	459	
コスト の内訳	直接事業費	千円	5	9	9	
	所属内間接費					
	人件費		450	450	450	
	投入人員	正職員 嘱託員	人/年	0.06	0.06	0.06
財源 内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源		455	459	459	

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	21年度 実績	22年度 見込	23 年度 目標
1	子ども議員・質問の集約	子ども議員の選出、質問の取りまとめ、答弁依頼、こども議会の開催	議員選出	人	18	18	18
2	各課へ依頼、回答の調整		納得できる答弁	%	100	100	100
3							
4							
5							

(ソフト事業) (B面)

6 事務事業の実績 <Do③>		事務事業名 [子ども議会開催事業(ふれあいトーク)]			
成果指標(意図の数値化)	単位	21年度実績	22年度実績(見込)	23年度目標	備考 (成果指標の考え方・計算方法)
議員数	人	18	18	18	
各議員への納得できる答弁	%	100	100	100	

7 事務事業の事後評価 <Check>				(ソフト事業)					
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題	
必要性	需要への 対応性	住民ニーズは		高い		高くない	○	把握なし	今後同じ形で毎年継続していくのは難しい。
		緊急性は		高い	○	高くない			
		利用者・対象者数は	○	増加		減少		横ばい	
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は		ない	○	ある		把握なし	
	町の関与の 必要性	民間の事業(サービス)との競合は	○	ない		ある			
国や県の事業(サービス)との重複は		○	ない		ある				
妥当性	サービス 水準の 妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	○	ない		ある			児童生徒にとっては有意義であると考ええる。
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は	○	ない		ある			
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	○	ない		ある		把握なし	
	連携の 可能性	他課で類似の事業は	○	ない		ある			
		他の事業と統合できる可能性は	○	ない		ある		あるが困難	
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は		ない	○	ある		あるが困難	
効率性	手段・ プロセス の効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	○	ない		ある			
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	○	ない		ある			
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は	○	ない		ある			
		受益者負担を見直す余地は	○	ない		ある			
有効性	目標の 達成度	成果指標が明らかで	○	ある		ない			施設の改善要求に対して回答が困難である。
		前年より成果が上がって		いる		いない	○	横ばい	
	持続の 可能性	継続することによる効果は	○	高い		高くない			
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○	いる		いない		測定困難	
		事業の休・廃止による住民への影響は		大きい	○	大きくない			
市場化の 可能性	既に全部委託済		更なる委託化が可能である		委託化の余地があり		○	委託化は不可能	
	市場化テストの導入について検討する余地がある				市場化テストの導入を検討する余地はない				
改善の可能性			1.改善の余地はない			○	2.改善の余地がややある		
			3.改善の余地が多い				4.抜本的な見直しが必要		

事務事業評価書

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action> 子ども議会開催事業

職場からの意見(担当者)									
(課題の解決についての提案など) 今年度からふれあいトークとして開催しているが、実施内容については児童・生徒の意見を聞きながら改善を図っていきたい。									
担当課長評価									
(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 各学校での総合的な学習の時間の取組や、郷土学習特色ある学校づくりの取組についての発表の場として捉え、さらに充実を図りたい。									
所管評価		1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続	○	3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7. 終了・完了	内部評価		3
教育長評価									
(教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか) この事業の趣旨は何かを再確認し、内容ややり方を見直し必要がある。 議会への認識を深めるとともに、子どもたちの意見発表の場としたい。									
事業評価		1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続	○	3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7. 終了・完了			
評価委員コメント									
内容ややり方を見直しながら行っていただきたい。									